

生態系の恵みを活かす漁業

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-06-24
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 谷津, 明彦
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2008571

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



うぶすな

— 生態系の恵みを活かす漁業 —

東シナ海漁業資源部長 谷津 明彦

漁業生産は生態系が人類にもたらす恵みの一つです。海洋生態系は、栄養塩から始まる物質循環にもとづく「維持機能サービス」を基盤として、漁業生産を含む「供給サービス」、水質浄化などの「調整サービス」、レクリエーションや教育の場などの「文化的サービス」を我々に提供してくれます。これらを生態系サービスと言います。ここでは、このような生態系の様々な恵みを活かしつつ、漁業を維持発展させるにはどうすればよいか、また漁業が生態系にどのように役立つかを考えてみます。

「うぶすな」とは西海第2号にも解説されていますように、「生まれた土地」を意味し、豊かな東シナ海に敬意を表してタイトルにされました。「うぶすな」は、様々な恵みをもたらす生態系サービスの基盤として捉えることができます。

これまで、我が国沿岸域の海洋環境は悪化して来ました。例えば、魚などの成育場として重要な藻場の面積は1978年からの20年間で約3割が減少、海水の浄化作用などを有する干潟の面積は1945年からの53年間で4割が減少してしまいました。勿論、様々な水質汚染防止の努力が実って徐々にきれいになってきた海もあります。しかし、水清くして魚棲まず、単に水がきれいなだけでなく、適度な物質循環が必要です。

さて、古くから魚付き林などとして知られるように、海の生態系は陸域特に河川と密接につながっています。サケやウナギやアユのように海と河川の両方が生息域として必要な生物も少なくありません。また、各地で問題になっている磯焼けの原因の一つは、河川水に含まれる成分の供給不足という説もあります。

従って、漁業生産には海域や陸域の生態系が健全であることが必要です。陸上や河川の生態系は人間の生活圏に近いことから、その変化も比較的容易に把握できます。しかし、海の生態系は直接に観察することが困難なため、どのような状態にあるのかは、西水研でも調査研究を

していますが、赤潮や磯焼け、クラゲの増加などの異常が起きてから気付くことが多いと思います。

一方、健全な生態系が損なわれると、漁獲量の減少や漁場や魚種組成などが変化すると思われます。そのため、毎日海に出ておられる漁業者さんが最初に気付かれることもあるでしょう。すなわち、漁業が状態良く行われていることは、それを支える健全な生態系の存在を示唆しています。

我々の社会生活は、生態系と社会経済システムのバランスの上に成り立っています（図1）。高度成長期には前者が後者の犠牲になっていたと思いますが、これからは健全な生態系が社会にも当然必要です。漁業の維持発展には健全な生態系が基礎であり、漁業は海洋生態系の変化をモニタリングすることができます。このようにして、健全な漁業が健全な生態系の証になることを期待しています。

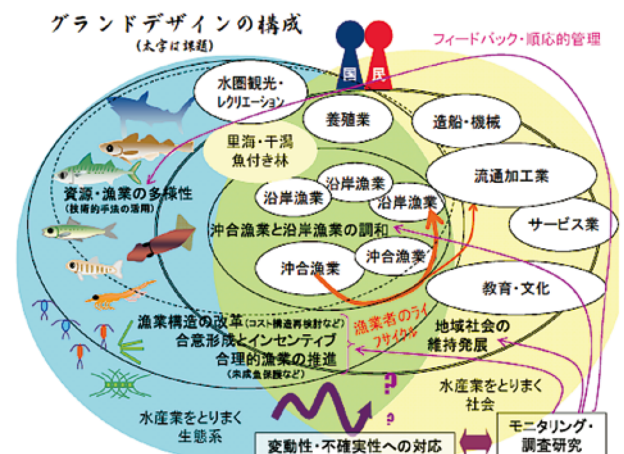


図1. 我が国漁業のグランドデザインの構成（我が国における総合的な水産資源・漁業の管理のあり方（最終報告）より）